



CONSERVATION

PROCESS FOR

MISS KYOTO

1985-1986

300 Congress Street Boston, MA 02210

JAPAN PROGRAM



MISS KYOTO — HER FIRST CALL  
AT HER OLD HOME (JAPAN)

MARCH 8TH 1985

SHE MET WITH HER SISTER  
" SAKURAKO" WHO IS OWNED

YOSHITOKU

ミス京都 里帰り 昭和60年3月8日

桜子 (吉徳所蔵) と姉妹の対面

使 の 和 平



今春アメリカ四十八州から、平和のお使、ミスマイカを初めとして、大勢の若い目のお人形が参りました。今度日本国際児童協会、文部省のお世話で、各府縣から一個宛の代表者が、平和の善札使として、十月中旬出発致します。中央は、ミス・ニホンで、向つて右は、ミス・ケイト、左は、ミス・シブオカ。ミス・ニホンはお嫁入道具、髪置、長持、袴箱、鏡台、針箱、ばんざりまで持参致します。衣裳は東京百貨店協会が引受け、高島屋呉服店で調製致しました別染別織品です。人形や調度は東京個人形組合が引受け、滝沢光雄殿、平田徳四郎、岩村松乾斎外数氏の製作。遠藤波津子さんが着付をされました。

PRESS-CUTTING ON HER-IN 1927  
MISS KYOTO-RIGHT CORNER  
MISS JAPAN WHO COME TO OUR HAND TOO  
FOR REPAIR IN OCTOBER 1983 -CENTER

当時（昭和2年）の雑誌の切り抜き 右端がミス京都  
ミス日本（中央）も、昭和58年10月里帰りし吉徳にて修復された

お 人 形 の 着 付



三色版口絵にご紹介いたしました、アメリカへ管札に行くお人形の衣裳つけを、遠藤波津子さんがしてられる処です。先づ足袋を履かせ、コンピネションを着せ、それから緋紋錦紗に金泥模様様の長袖袴を着せませす。それから腰の恰好を整へるために、腰ぶさんをして、二枚重れの裾模



様を着せ、帯を締めるのですが、着物は七つ位のお嬢さんを標準にした別染もので、帯も特別に織つたものです。その他半袴、帯揚、帯止、すべて大きな布を切つたものでなく、人形用の特製品のみです。帯の結び方は本文記事(二三四頁)をご参照下さい。





TAKING MEMORIAL PICTURE WITH ALL OF STUFF  
ABOVE: TOKUBEI YAMADA—PRESIDENT OF YOSHITOKU  
BELOW: MISS EIKO SERIKAWA MRS. HATOE OHTANI  
MRS. AKI UEDA FROM RIGHT

修復前 スタッフと記念撮影

写真 上 吉徳社長 山田 徳兵衛

下 右から 芹川 英子 大谷 鳩枝 上田 昭

MISS KYOTO - PROCESS FOR REPAIR

ミス京都 修復工程



① TAKING OFF HER DRESS

着物をぬがせる



② BODY DISMANTLEMENT AND ASSEMBLY

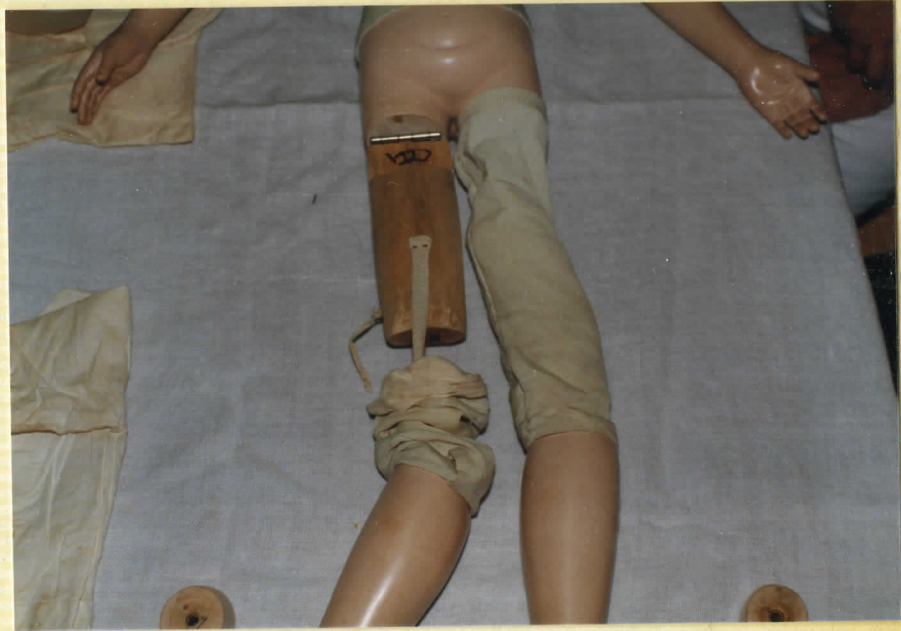
解

体





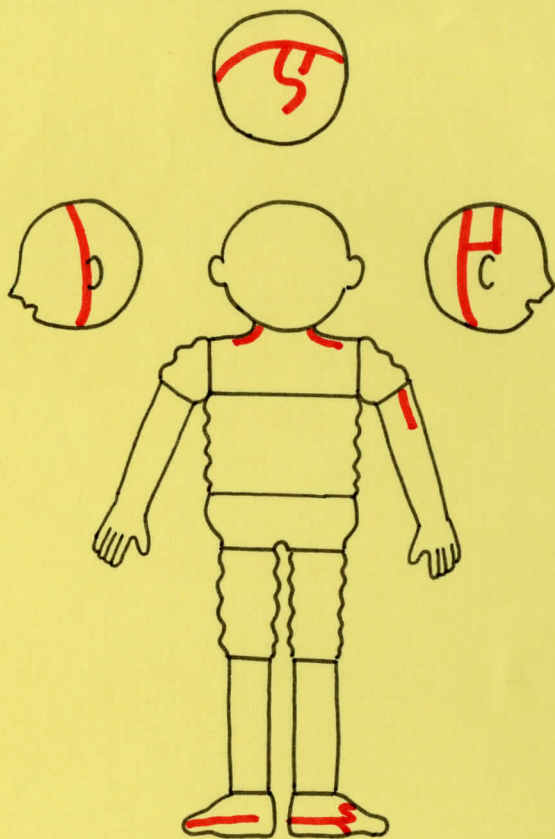


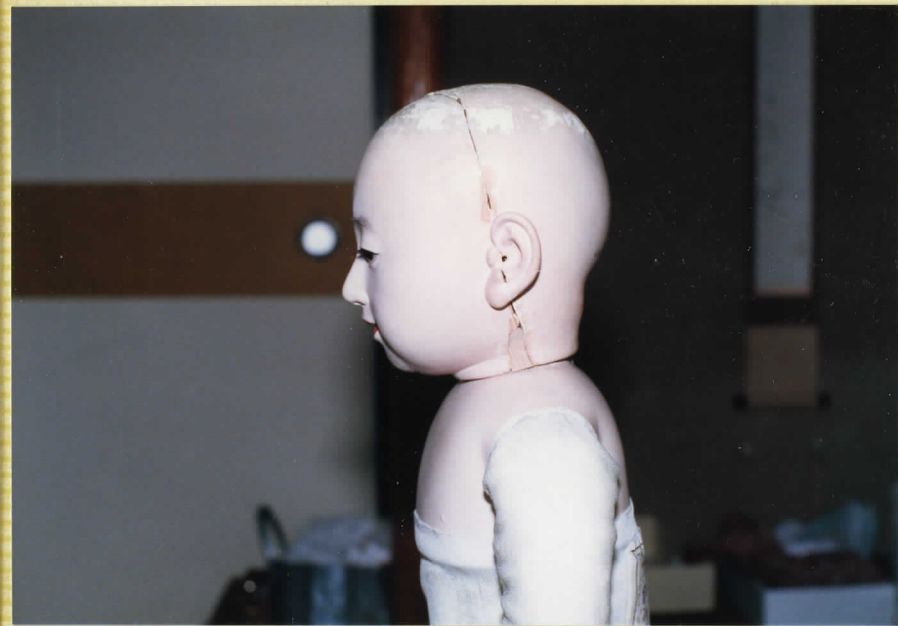


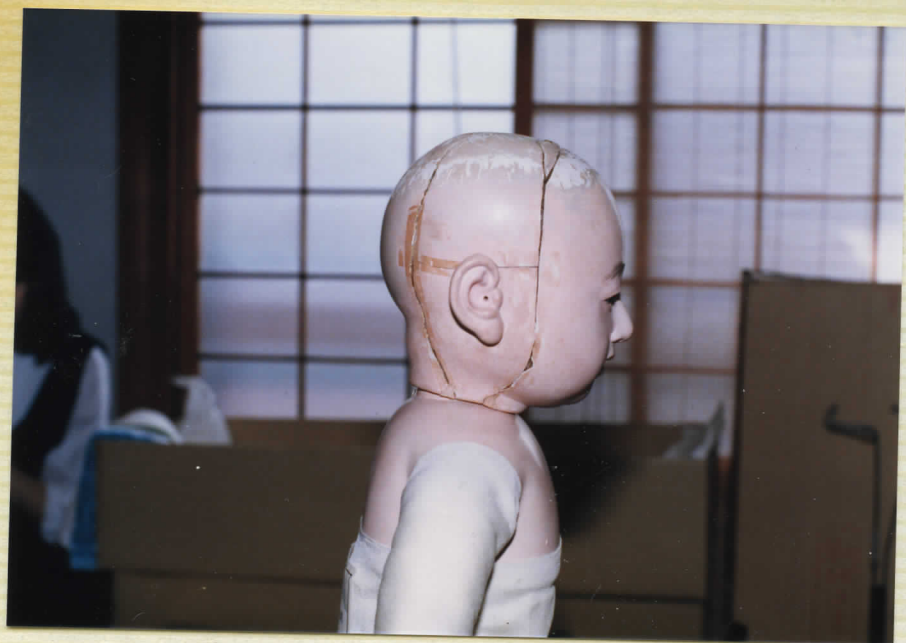


SIGNATHRE BY MR. GOYO HIRATA  
(DOLL MAKER)

製作者 平田郷陽氏のサイン





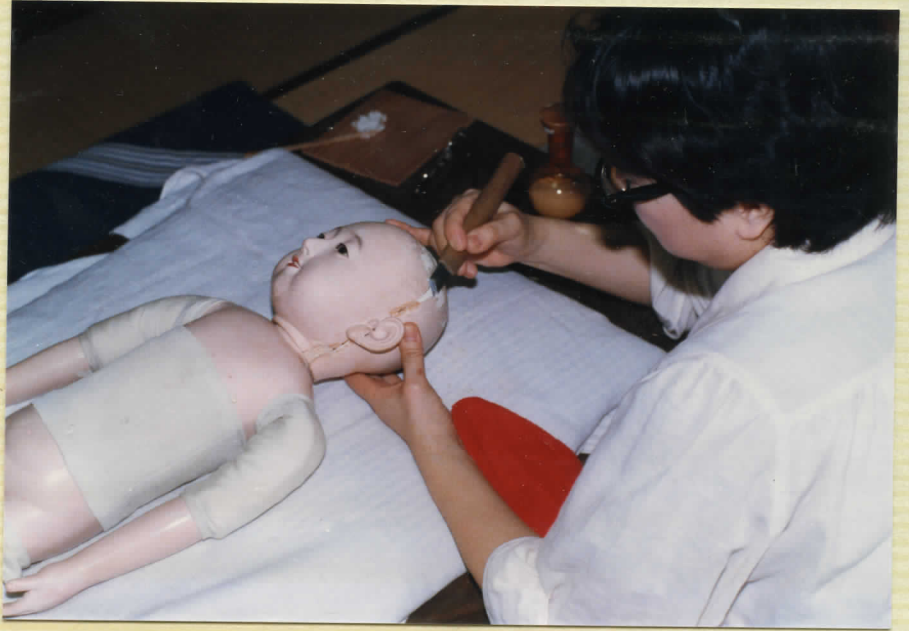




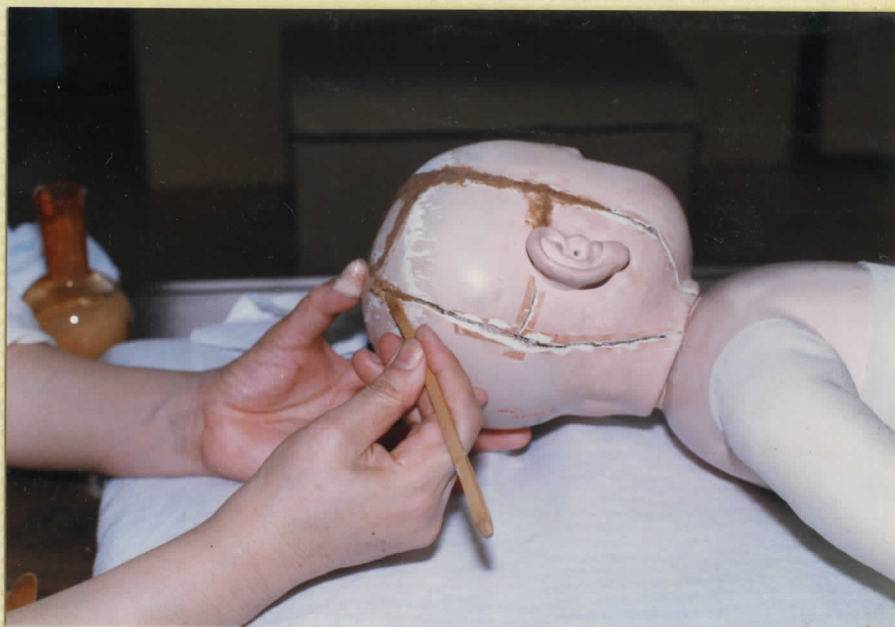




③ ADJUSTMENT  
形を整える

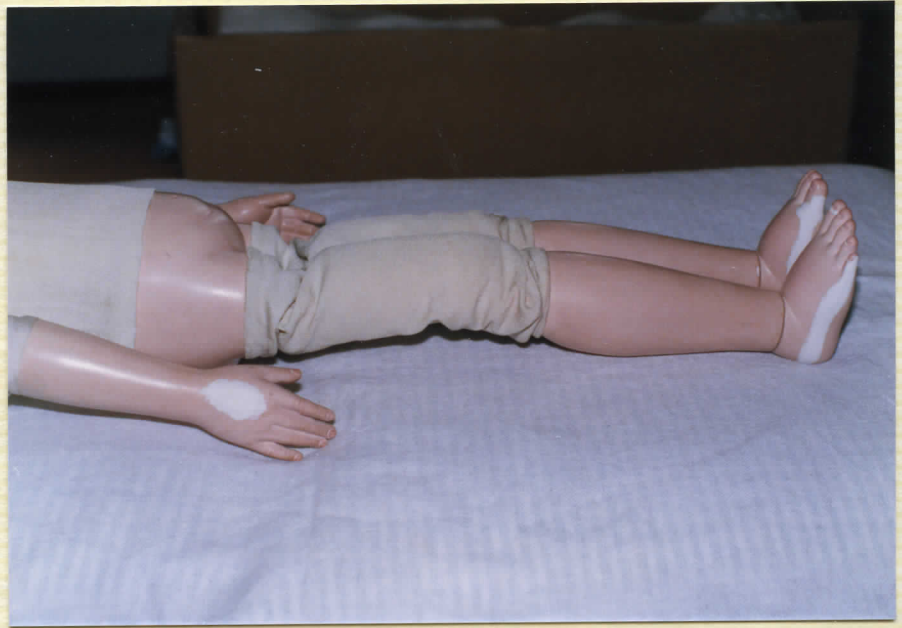
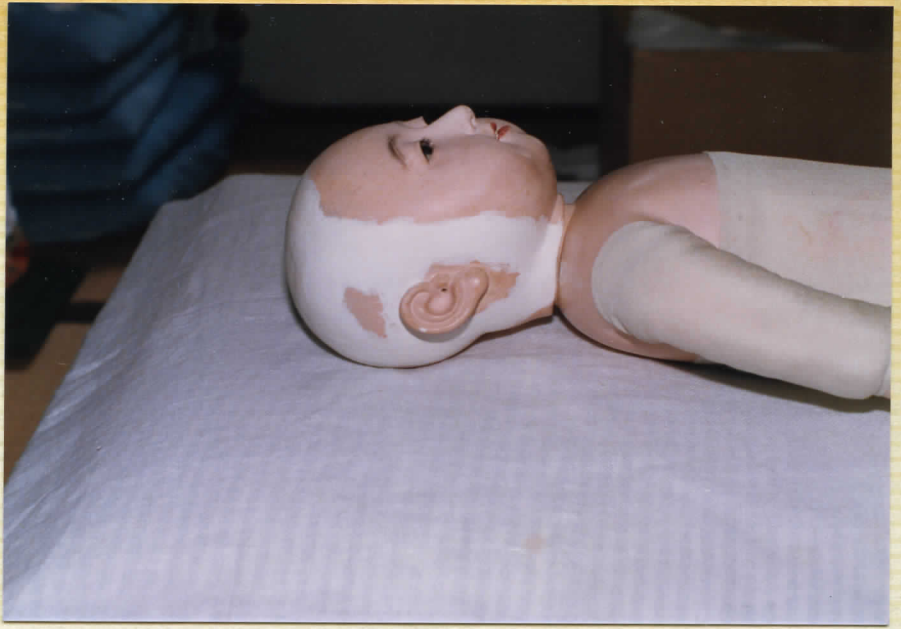


④ PUTTING INTO LUMP OF WOODEN POWDER  
(WHICH IS TAKEN UP FROM A WOODEN MOLD)  
桐粉をつめる





⑤ UNDER-COATING  
地塗り



⑥ FINAL-COATING  
上塗り











⑦ LOOK PAINTING  
表情を描く





⑧ HAIR SETTING

髪をつける











WITH TOKUBEI YAMADA

山田 徳兵衛と共に

JAPANESE DRESS REPAIR  
KYOTO KIMONO CRINIC

着物修復 京都キモノ・クリニックにて











DRESSING  
着せつけ















⑨ COMPLETION  
修復完了







PRODUCED BY YOSHITOKU CO., LTD.

FEBRUARY 1986

制作 株式会社 吉 徳 昭和61年2月